

相談支援係
072-941-3365

ICT教育推進係
072-943-5785

研究研修・幼児教育係
072-943-5784

教育センター
Web page は
こちらから



初任者研修⑦

誰もが最初から
よい教師(リーダー)ではない
地道な努力、
こつこつと人知れず徳を積む
「陰徳」の姿勢が、
「子どもが信頼する教師、
リーダー」への道

7月18日(金)午後2時～午後5時に初任者研修⑦を行いました。前半の講師は臨床心理士の 庄司 真人 さんで、研修テーマは「支援教育のあり方と子ども理解」です。後半の講師は本センター 生田 祐敬 指導主事で、研修テーマは「授業づくり4—道徳授業づくりについて—」です。この日は講義のみで体験ワークは次回研修(7月25日)に行いました。

←研修使用資料

<受講者感想>

- ・私が今回の研修で特に印象が残ったことは、「注目」についてである。私は普段から子どもの良いところは褒めて、悪いところは指導するというようにしていたが、無意識のうちに、問題行動ばかり起こす子どもに対し、指導してばかりで、あまり褒めていないということに気づいた。しかもその基準は曖昧で、意図がないまま指導していた気がする。私は子どものあらゆる行動に対し、自分基準で考えてしまっていたので、もっと子どもに寄り添い、良いところに注目して褒める場面を多くすることが大事だと思った。
- ・今回の研修では児童一人ひとりの背景や状態に応じた接し方や指導の仕方を考えないといけないと思った。その言葉掛けで変わる子もいれば、変わらない子もいることを理解しておくことが大切だ。その子が今、高い意欲があるのか、もしくは不安定な状態なのか、そこを見極めて言葉掛けをしていけるように常日頃から子どもとコミュニケーションをとり、観察して把握していきたい。
- ・今回の講義を通して、児童の様子を観察し、個々に合った手立てを考える難しさを感じた。1学期を振り返ってみると、行動が気になる児童が自分のクラスにもおり、その日その日の気持ちによって様子が変わるため、「どのように対応すればいいだろうか。」と悩むことが多くあった。この時に指導しないといけないという思いで、自然と減らしたい行動に目がいてしまい、指導を入れてしまうこともあった。しかし、本講義で「待つこと、促しを必要以上に多くしないこと」も大切だということを知り、2学期には行動を3つに分けて児童に対する手立てを考えていかなければならないと感じた。

初任者研修⑨・新規採用事務職員研修⑩

7月24日(木)午後2時～午後5時に初任者研修⑨・新規採用事務職員研修⑩を行いました。前半の講師は大阪常磐会大学 佐谷 力 教授で、研修テーマは「児童生徒理解を深めるために1—児童生徒・保護者とののかかわり方—」です。後半の講師は本センター 吉原 佑輔 指導主事で、研修テーマは「特別支援教育について」です。

<受講者感想>

- この研修を受講して、児童生徒、保護者とのかかわり方で一番大切なものは聴き方であると学んだ。聴き方として大切にしたいことは三つある。それは、うなずき、繰り返し、共感である。実際に研修時に試してみて、やはりこの三つを意識して聞いていると話を聞いてもらっている側はとても話しやすく、信頼感を感じたので、今後実践していきたい。

聴き方（かかわりの基本）

「 」・・・しっかり聴いていることと、共感していることを伝える

※相手のテンポに合わせ、深くやさしく、表情を内容に合わせて

「 」・・・理解していることを伝える 安心感、信頼感を生み出す

※感情の部分（「つらい」「腹が立つ」等）や相手が「特に言いたいこと」を中心にくりかえして返す

「 」・・・「それは大変でしたね」「それはつらかったですね」

※ 想像する「こう言われたら、どういう気持ちになるだろう」

表現する「あなたの気持ちわかりますよ」

↑ 研修使用資料（前半）

<受講者感想>

- 今日の研修で学んだ「聴き方や関わり方の基本」を、これからは子どもや保護者と関わる時には意識していきたい。また何を言うかという「言葉」ももちろん大切であるが、声や表情が伴っていないと言葉だけでは伝わらないことがあるので、言葉をただ選ぶのではなく相手のことを思う気持ちで向き合って話すことが必要だと実感できた。
- 保護者に信頼してもらえるようにかかわるためには、まず保護者の気持ちを受け止めることが大切なのだと思う。こちらがたくさん話すのではなく、保護者の思いをしっかり聞いて理解している姿勢を見せることが必要だとわかった。また、普段から子どものいいところをたくさん伝えて、保護者を安心させることで、信頼関係の構築に重要な役割を果たすのだということが分かった。ロールプレイなどをおして、保護者や子どもをはじめとする人とのコミュニケーションでは言葉だけではなく、表情や目線、声のトーンで印象がかわることがよくわかったので、親しみやすい雰囲気や思いを受け止めていることが伝わるように実践していきたい。

↓ 研修使用資料（後半）

特別支援教育とは

- 障がいのある幼児児童生徒が自立し、社会参加することをめざすもの
- 生活や学習上の困難を改善又は克服するため一人ひとりの教育的ニーズに応じて指導・支援するもの
- 学校園全体で取り組むもの
- 共生社会形成の基盤となるもの

<受講者感想>

- 特別支援学級担当の先生は本当にすごいと日頃から思っている。一緒に働いている先生方も一人ひとりにあった環境や授業づくりを行い、工夫された教材や道具も多く、教わることがたくさんあった。教育の原点だと思う。今回の講義の中で、私は合理的配慮がまだまだできていないと感じた。また、基礎環境整備と合理的配慮が混在して考えていることに気づいた。授業を行う前に環境を整えることや平等に教育を受けられるようにすることはとても大切だと思う。2学期、できる所から少しずつ取り

組みたいと思う。特に UDL についてもっと知りたいと思った。(UDL = 「学びのユニバーサルデザイン (Universal Design for Learning)」の略)

- ・今年初めての通常学級担任をし、学級内に支援学級在籍の児童はいるが、1 学期は支援在籍児童を深く見る事ができていないと感じた。今回の研修を通して、特別支援教育の大切さを改めて感じる事ができた。2 学期からはその事を意識したうえで、学級づくりや授業づくりをしていきたいと思った。
- ・今日の研修で、学んだことが3つある。1 つ目は実態把握の大切さについて。子ども一人ひとり目標や指導、支援の仕方は違うので、個別の指導計画を作成するためにも、まずは、その子の特性や興味関心、また苦手なことだけでなく得意なことや強みなど、あらゆる視点から多面的に理解していく必要があると感じた。2 つ目は合理的配慮と基礎的環境整備の違いについてです。一人ひとりに対する支援とみんなにとっての支援の違いを理解することができた。合理的配慮のワークを通して、普段何気にやっていることでも合理的配慮に当てはまることを認識した。3 つ目は発達障がいの子の特性理解についてである。症状の表れ方は人によって異なるため、まずは子どもの困り感を理解し、共感することが支援の第一歩だと思った。

初任者研修⑪

7月25日(金)午後2時～午後5時に初任者研修⑪を行いました。前半の講師は、堺税務署 榎 直也 税務広報広聴官、黒瀬 鈴代 税務広報広聴官、八尾税務署総務課 下野 哲平 課長補佐で、研修テーマは「租税教室」です。後半の講師は非認知能力キャリア教育アドバイザー 東口 るみ さんで、研修テーマは「自己肯定感を育てる-非認知能力について-」です。

↓研修使用資料(前半)

租税教育の目的

租税教育の目的は、民主主義の根幹である租税の意義や役割を正しく理解し、社会の構成員として税金を納め、その使い道に関心を持ち、さらには**納税者として社会や国の在り方を主体的に考えるという自覚を育てる**ことにあります。

若年層への健全な納税者意識の醸成が大切



税務職員はどんな仕事をしているの？

国民に納税の義務を正しく行ってもらうための調査や徴収、確定申告以外にも税に関する広報活動を実施し、税の意義や役割を正しく理解してもらうため租税教育を行っています。

しっかり租税教育、していかないとけないね。



<受講者感想>

- ・普段給料明細を見ていて、一体何がどう引かれているんだろうと考えていた。研修を通じて色々な種類の税があることを知った。小学校でも税について教える授業があるので、納税の義務があるということだけではなく、何にどう使われているのか、税がないとどうなるのかということを知っておく必要があると思った。今日の研修で、普段気にしていないところにも税金が使われていることを知り、税のマイナス面だけを見ていたことを反省した。今後も自分のためにも、授業のためにも税について学んでいきたい。

- ・教材として紹介された「マリンとヤマトの不思議な日曜日」というアニメはとても分かりやすかったので、授業でも活用していきたい。
- ・租税のことは、知っているようで知らないことが多いと思った。私は学校で何度も税金について学ぶ機会があったが、社会人となった今、まだまだ分からないことが多いので、租税教室はもっと充実させる必要があると思う。所得税や住民税など、子どものときには触れたことのないような税に急に出くわして戸惑っていた。こんなことにならないように、子どもの時からもっと詳しく税について学んでおくべきだった。

↓ 研修使用資料（後半） 「非認知能力を伸ばすためにできること」

- ・小さな成功体験が大切をさせる。（自己効力感）
- ・子ども自身に決めさせる。あなたはと思う？と質問をする。（判断力・自己肯定感・論理的思考力）
- ・結果よりもプロセスを認める。（自己肯定感）
- ・意味付け・気づきの言語化していく。（自己認識力・表現力）

< 受講者感想 >

- ・子どもたちがアサーティブコミュニケーションを増やしていけるように指導していこうと思った。子どもたちの自己肯定感を上げるために、非認知メガネをかけ非認知の視点を持ち、その視点から観察し、様々なしかけをしていき、気づいてことなどを子どもたちにしっかりフィードバックして、振り返りをするというこのサイクルが重要であることを学んだ。今回の研修を通して、2学期から発達支持的指導を試してみたいと思った。子どもたちが普段当たり前にできていることなどを褒めていき、少しでも子どもたちの自己肯定感が上がるような関わりを大切にしたい。

- ・今回の講義では自分が今まで子どものこの能力を伸ばしたいなと思っていたことなどが非認知能力ということだと気づきました。今までテストの点数や計算力など子どもにとっても重要でありこれから必要になってくる力を伸ばすことが教師にとってやるべきことだとも思っていました。でも、それと同じ、もしくは、それよりも非認知能力を伸ばしていくことがこれからの日本の学校にとって一番重要だと言うことを学ぶことができました。
- ・自分が普段の授業や学校生活の中で児童に対してどのような非認知能力の育成を行っているかを知ることができた。非認知能力の育成はこれからの児童に必要不可欠であると感じるとともに、学校で非認知能力の育成により力を入れるべきだと思う。もちろんテストなどで数値化できる認知能力の育成も大切であるが、人と関わる力や自分に関する力である非認知能力は様々な年齢、性格の人と関わるができる学校現場でこそ、より育成すべきだと思う。ほんの少しの声掛けでも非認知能力の育成に繋がると今回の研修で知ることができたので、これからは非認知能力の育成についても、より意識して児童と関わりたいと思う。

幼児教育研修<食育研修>

咀嚼の効用

①おいしさを感じる

固体の食物は、咀嚼により味物質が唾液に溶かし出される



②唾液がたくさん出る

消化酵素を含んだ唾液の分泌が促される



③記憶力・集中力 あごの運動

により脳の血流が良くなり脳の機能を活性化

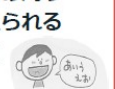


④情緒の安定

噛むというリズム運動により体の緊張がやわらぎストレスを解消

⑤あごや舌、口の周りの筋肉が鍛えられる

発音や滑舌を助ける



⑥運動能力

よく噛む習慣により噛み合わせがよくなると、運動時のバランスや姿勢、筋力や瞬発力などの運動能力が発揮される



⑦満腹感

噛むことが満腹中枢を刺激し、食べる速さや量を調節する

⑧食物が細くなり安全に飲み込める

唾液には、自浄作用、抗菌作用、pH緩衝作用、再石灰化作用、消化作用、粘膜保護・潤滑作用、粘膜修復作用、溶解・凝縮作用など多くの生理的作用がある。

令和7年7月28日（月）午後3時～午後5時に、幼児教育研修<食育研修>を八尾水道センターで行いました。講師は大阪樟蔭女子大学 上田 由香理 准教授で、研修テーマは「乳幼児期の咀嚼について～幼児期の健やかな発達のための栄養・食生活支援ガイドをふまえて～」です。

← 研修使用資料

<受講者感想>

- ・「1・2歳の好き嫌いは食感が原因のことが多い」「新しい食材は平均7・8回食べる経験が必要」と聞き日常の取り組みに自信が得られた。こども園で提供する食材の切り方や味付けを工夫してみても、夏場しか出ない食材を嫌がる子どもも多いが、食経験として根気強く出し続けようと思った。
- ・咀嚼の大切さ、いろいろな機能とのつながり、よりよい姿勢、食具の選択など、一人ひとりに合った支援を検討していきたい。
- ・食事の姿勢が安定しない子は、咀嚼にも時間がかかるなど運動機能の発達と深い関係があることがよく分かった。今後、個に応じた保育を心掛けていきたい。

幼児教育研修<ミドルステージ研修①>

3. 学びの芽生え

遊びを支えている「興味」「やってみよう気持ち」「楽しむ気持ち」は、非認知能力

〇乳児期から、子どもは、生活や遊びの様々な場面で、主体的に周囲の人や物に興味を持ち、直接関わっていきこうとする。

このような姿は「**学びの芽生え**」といえるものであり、生涯の学びの出発点にも結びつくものである。

■学びの芽生え
＝主体的に周囲の人や物に興味を持ち、直接関わっていきこうとすること

「やってみよう！」(トキメキ)
＝遊びの原動力
(学びに向かう力)



令和7年7月29日(火)午後3時～午後5時に幼児教育研修<ミドルステージ研修①>を八尾市立青少年センター3階集会室で行いました。講師は大阪総合保育大学 瀧川 光治 教授で、研修テーマは「非認知能力 遊びが学び 学びが遊び～保育ドキュメンテーションで綴る学びの芽～」です。

←研修使用資料

<受講者感想>

- ・遊びから学びが深まると聞いてはいたが、実際のところ、十分理解していたとは言えなかった。些細な活動でも学びが生まれるというのに、そのチャンスを逃したことがあったかもしれない。
- ・保護者発信の保育ドキュメンテーションでは、全員の写真を載せたいという視点が強かったが、「これを伝えたい」と明確になるようにタイトルや写真の配置、コメントを工夫していきたいと思った。また、保育向上のために職員同士の情報共有のツールとしていきたい。
- ・乳幼児期にたくさんの思いや願いを受け止めていくこと、自尊心、自己抑制、忍耐力がついていくように、日々の遊び環境を考えていきたい。

幼児教育研修<キャリアステージ研修①>

保育現場で虐待等が生じる背景

■ 保育者の認識と保育環境

(1) 保育者の認識

これまで特段問題とは認識されていなかった行為であっても、こどもの最善の利益という考えが定着している。保育者は経験や自身の常識を過信せず、こどもとの関りを振り返り、こどもの最善の利益が尊重されているか意識する必要がある。

保育者が良かれと思った行為であるために、その行為がこどもの権利を侵害するという重大さに気づいていない状況も考えられる。

(2) 職場環境

保育者一人一人にかかる負担は増加している。保育者が多様な対象のニーズに対応することが求められている状況では、保育者が丁寧に向き合い、対応する十分な時間が確保されない事態も起こり得る。

職場において、保育を振り返る機会や話し合う機会を通して、保育者が相互に気づきを高め、連携が高まることを考えられる。一方そのような機会がないままに日々が過ぎることで、保育者は気づかないまま、過信による不適切な関りをしてしまう危険性が高まる。

令和7年8月4日(月)午後3時～午後5時に幼児教育研修<キャリアステージ研修①>を行いました。講師は武庫川女子大学 倉石 哲也 教授で、研修テーマは「不適切保育ってどういうこと?～子どもの人権を尊重する保育～」です。

←研修使用資料

＜受講者感想＞

- ・不適切保育をなくしていける職場環境とは、コミュニケーションを大切にし、子どものカンファレンス保育のことなどを自由に話せる関係性や機会がある職場だと思った。
- ・経験や自身の常識を過信せずに、子どもの最善の利益が尊重されているかと問われドキッとした。
- ・食事面でのかかわり方で悩むことがあり、それが子どもの人権につながることを知り、改めて考えさせられた。

教育センター「情報公開コーナー」

教育センターB棟（東側）の2階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も2週間の貸し出しを行っております。今回は8月から9月に配架した雑誌の誌名と目次の一部と書籍の内容を紹介いたします。

「指導と評価」（日本教育評価研究会）9月号

- ・特集1 教師のファシリテーション力
- ・特集2 こころといのちの教育

「こころの科学」（日本評論社）No.243 2025,9, Sep

- ・特別企画 パニックと不安 多面的な理解と臨床

「道徳教育」（明治図書）9月号

- ・いますぐ 書店に行きたくなる 絵本×道徳 パーフェクトガイド

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育研究連盟編集・東洋館出版社）9月号

- ・特集 今だからこそできる！年間指導計画の再構築

「初等教育資料」（文部科学省編集・東洋館出版社）9月号

- ・特集Ⅰ 各教科等の目標の実現に向かう GIGA スクール構想のもとでの授業②
- ・特集Ⅱ 〔国語〕国語科における言語活動の創意工夫

「中等教育資料」（文部科学省編集・学事出版）9月号

- ・特集 各教科の指導における問題発見・解決能力の育成③
＜技術・家庭、情報、道徳、総合的な学習（探究）の時間、特別活動＞

教育科学「国語教育」（明治図書）9月号

- ・特集 「ごんぎつね」の授業 THE BEST

教育科学「社会科教育」（明治図書）9月号

- ・特集 実物&エピソードでつくる！
学びを深める社会科授業デザイン